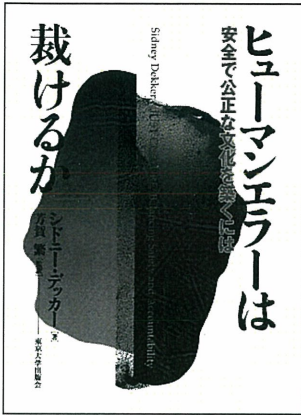


ヒューマンエラーは裁けるか—安全で公正な文化を築くには

シドニー・デッカー 著 芳賀 繁 監訳
 東京大学出版会 定価 2,940 円 (本体価格 2,800 円)

〈評者〉中島 和江

大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部



この本は、シドニー・デッカー氏の“Just Culture: Balancing Safety and Accountability”の日本語訳である。英語題名の直訳は「公正な文化：安全と説明責任のバランス」となるが、監訳者の芳賀繁先生は「ヒューマンエラーは裁けるか～安

全で公正な文化を築くには」と、うまく訳している。のです」と言った看護師に対する弁護士の返事は「それはできません。…最高裁判所で求められているのは真実ではありません。求められているのは司法手続きと法的解釈であり…」というものであった。

本書は、失敗への対応として「説明責任を全うして要求に応えること」と「学習や改善に貢献すること」の両立が必要である、と繰り返し強調している。一方、「専門家の失敗が有責かどうかを裁く立場にある人たちは、後知恵の影響に大きな注意を払わない」という問題点を指摘し、「後知恵を使って判断すれば、人間のどんな行動も判断も分別に欠けるように見えるものである」としている。また、許容される行動と許容されない行動の境界線をひくことも自明ではない。「誰が境界線を引き、その際にどのようなルール、価値、正当性等を用いるのかということこそが問題であり、これらについての透明性と合意を得ることである」ということが大切なのだ。とかく刑事司法やメディアの追及を免れるために誰かがスケープゴートにされるということが起こりがちであるが、そのような不公正な対応は組織を安全しないばかりか、第一線で働く人たちの仕事をかえって難しくしてしまう。

全で公正な文化を築くには」と、うまく訳している。

私がこの書物を知ったのは平成21年3月のこと。長い間、航空安全に携わってきた方が英語の原書を送ってくださったのである。「エラーと罰性についての境目がどこにあるかを明快に論じた本書は、これから航空分野での安全文化やJust Cultureを検討していくための論点と回答の多くを与えてくれているように受け止めました」というメッセージが添えられていた。その2カ月後、芳賀先生が“Just Culture”を翻訳していると耳にしたが、すぐさま日本語訳出版の運びとなったわけである。

芳賀先生は、立教大学で教鞭をとるかたわら、国土交通省、JR西日本、日本航空などで安全関係の要職も務めている。またテレビ番組「世界一わかりやすい授業」でも楽しい講義を披露してくれた。

本書は、ヒューマンエラーを犯罪とみなすことに伴う問題点を安全と説明責任の観点から深く掘り下げている。内容は、スウェーデンの集中治療室勤務の看護師が生後3カ月の患児に対してキシロカインを過量投与し死亡させた、という医療事故に始まる。最高裁判所は事故の根本原因に踏み込むことなく、医療過誤刑事事件として有罪判決を下した。裁判を前にして「私は真実を明らかにしたいだけな

ただし、理想的なシステムにおいても個人的な説明責任は問われるべきである。だが、その説明責任は、個人や組織の保身のためではなく、安全性を向上させる未来志向のものでなくてはならない。そして、情報開示は重要であるが、その一方で正直に報告すれば公正に扱われるべきである。

芳賀先生は、「この問題について、本書の出版をきっかけとして広範な社会的議論が起きることを期待している」と書かれている。組織のリーダー、安全の専門家、法社会制度の設計に関わる人々など、ぜひ多くの方々に読んでいただきたい。